

子ども（0歳から9歳）のテレビ接触

～NHK放送文化研究所“子どもに良い放送”プロジェクト調査～

NHK放送文化研究所
主任研究員 中井 俊朗

1. はじめに

テレビなどの映像メディアとの接触は子どもの成長・発達にどんな影響を与えるのだろうか——そのような問題意識で始まったのが、NHK放送文化研究所の“子どもに良い放送”プロジェクトの調査である。平成15年1月に調査がスタートし、以来毎年1回調査（原則的には1月、郵送調査）を実施し、平成25年の今年、11回目を迎えた¹⁾。

この調査の主な特徴として、①同じ子どもたちを0歳時から継続して追跡するパネル調査であること、②小児医学、教育学、発達心理学、社会学などの専門家²⁾とNHK放送文化研究所との共同研究であること——この2点が挙げられる。

調査対象は、平成14年2月から7月までに川崎市に生まれた子どもたちを地域(区)別に無作為抽出した1,600人のうち、調査協力の承諾が得られた1,368人の子どもとその保護者である³⁾。川崎市を選んだ理由は、商工業地域、住宅地などが散在し、各産業従事者、サラリーマン、自営業従事者など、就業状況がある程度バランスが取れている点にある。また、現実的には調査を実施するうえで距離的な便宜も考慮した。

0歳からの追跡調査は郵送で行い、主たる調査内容は以下の3種類である。

- ① 視聴日誌調査（本稿「2. 映像メディア接触」を参照）
- ② 保護者1用質問紙調査（「保護者1」と

は子どもの世話や面倒を主にしている保護者であるが、母親と父親が子どもと一緒に暮らしている場合は母親が回答する）

- ③ 保護者2用質問紙調査（「保護者2」とは「保護者1」の次に子どもの世話や面倒を見ている保護者を指すが、両親が子どもと一緒に暮らしている場合は父親が回答）

本調査は12年間の予定でスタートした。現在、調査は最終盤に入り、来年（平成26年）の調査を最後に、全体の分析に入る予定である。本稿では、子どもたちが0歳から9歳になるまでテレビをどのように見てきたかに絞って、今年の調査までの10年間の集計結果をご紹介しますことにしたい。

2. 映像メディア接触

本調査では、子どもたちはどんな映像メディアにどれだけの時間接触しているのか、0歳時から毎年、視聴日誌調査によって調べている。視聴日誌調査とは、調査期間の1週間、子どもがどんな映像に接触したかを保護者が記録するものである。24時間、15分単位で、どの映像メディア（テレビ、ビデオ・DVD・HDD、ゲーム）でどんな内容（テレビチャンネル、番組、ソフト）に触れたかの毎日の記録である。

接触の仕方については、その濃淡によって、①専念視聴（他のことは何もせずに専念して視聴している）、②ながら視聴（食事や遊びなど他のことをしながら視聴してい

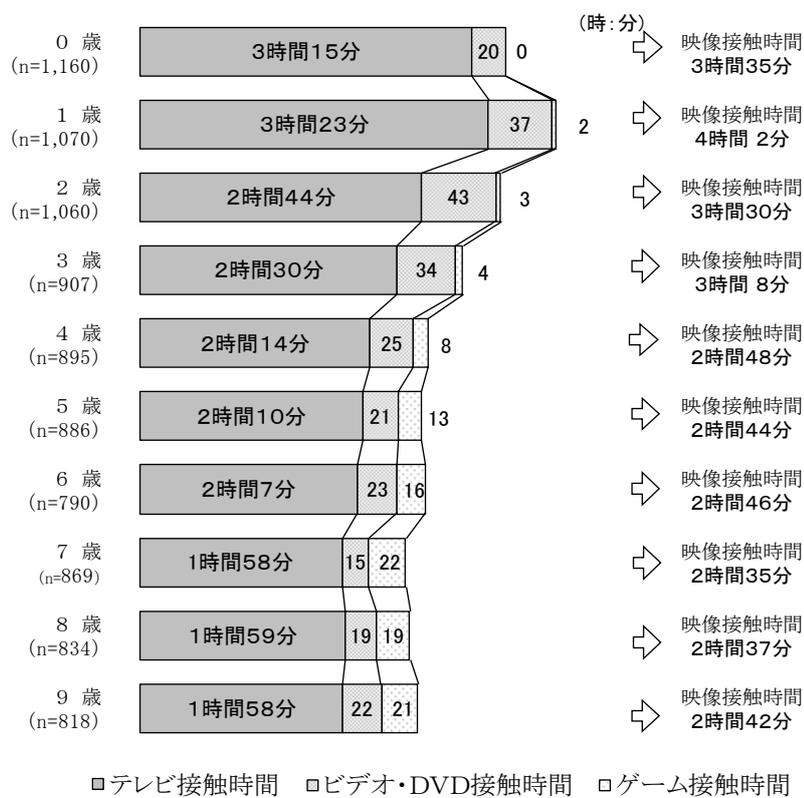
る)、③ついているだけ(視聴してはいないが子どものいる部屋でメディア機器がオンの状態である)のいずれかについて、また誰と一緒に見ているかで、①子どもだけで、②大人と一緒に、のいずれかについて回答をお願いしている。

「ついているだけ」は通常のテレビ視聴調査ではあまり見ない指標であるが、幼児期は受動的なメディア接触が重要な意味を

持つという理由で設けた。また誰とテレビを見ているか、誰とゲームをしているかについても、子どものメディア接触に関する保護者の指導・監督を考える上では重要な指標と考えられる。

さて、調査対象集団の子どもは0歳以降、映像メディアとどのように接してきたのか、まず時間量で振り返ってみたい。図1は映像メディア接触時間の経年変化である。

図1 映像メディア接触時間の経年変化(週平均1日)



時間量は、メディア別にはテレビが突出している。年齢的には1歳時が映像メディア全体の接触時間量は最も多く、以降4、

5歳くらいまで減少していくが、それはテレビの接触時間量の減少に大きく影響されている。

図2は、テレビの接触時間を「専念視聴」、「ながら視聴」、「ついでにだけ」に分けた経年変化である。これを見れば、1歳以降テレビ接触時間が、ひいてはメディア全体の接触時間が減少の一途をたどる理由が見えてくる。

接触内容のうち、「ついでにだけ」が0

歳から5歳にかけて毎年減少しているのが確認される。これは、成長するにしたがい就園・就学が始まり、行動範囲が広がるとともに、外遊びやゲームなど、テレビ以外の興味や関心が拡大するからだと思われる。

図2 テレビ接触・視聴時間の経年変化（週平均1日）

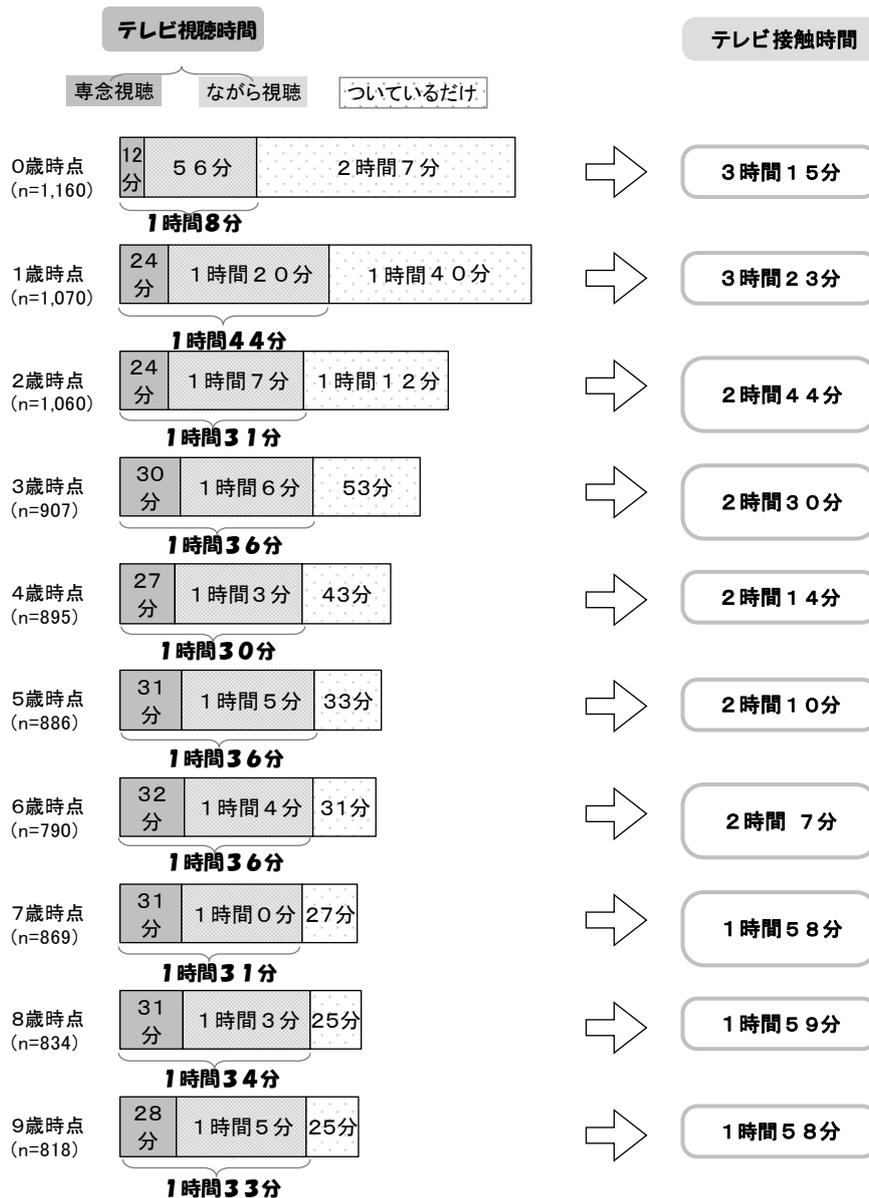
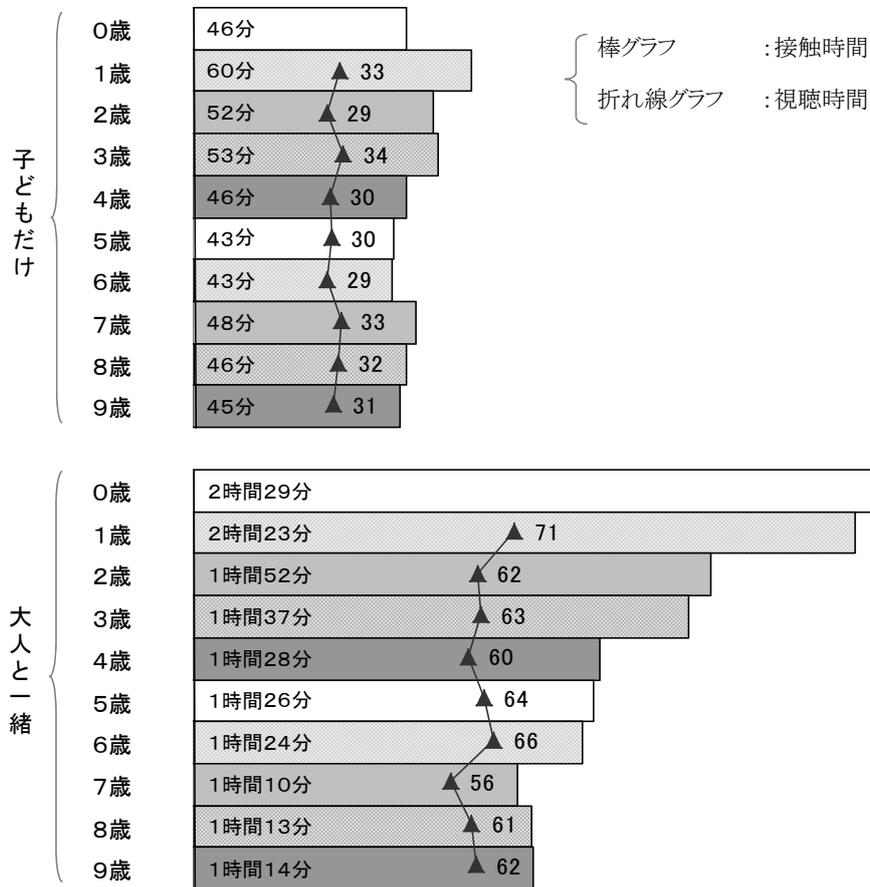


図3は、視聴日誌調査から算出した「子どもだけ／大人と一緒に」別のテレビ接触・視聴時間の経年変化である（0歳時は視聴時間（専念・ながら）を質問していない）。

図3 「子どもだけ／大人と一緒に」別 テレビ接触・視聴時間



テレビ接触・視聴時間は、「大人と一緒に」の時間が「子どもだけ」の1.5倍から2.5倍くらいを占め、その時間の減少は、「大人と一緒に」（おそらく親と一緒に）にテレビに接する時間の減少が大部分を占めている。

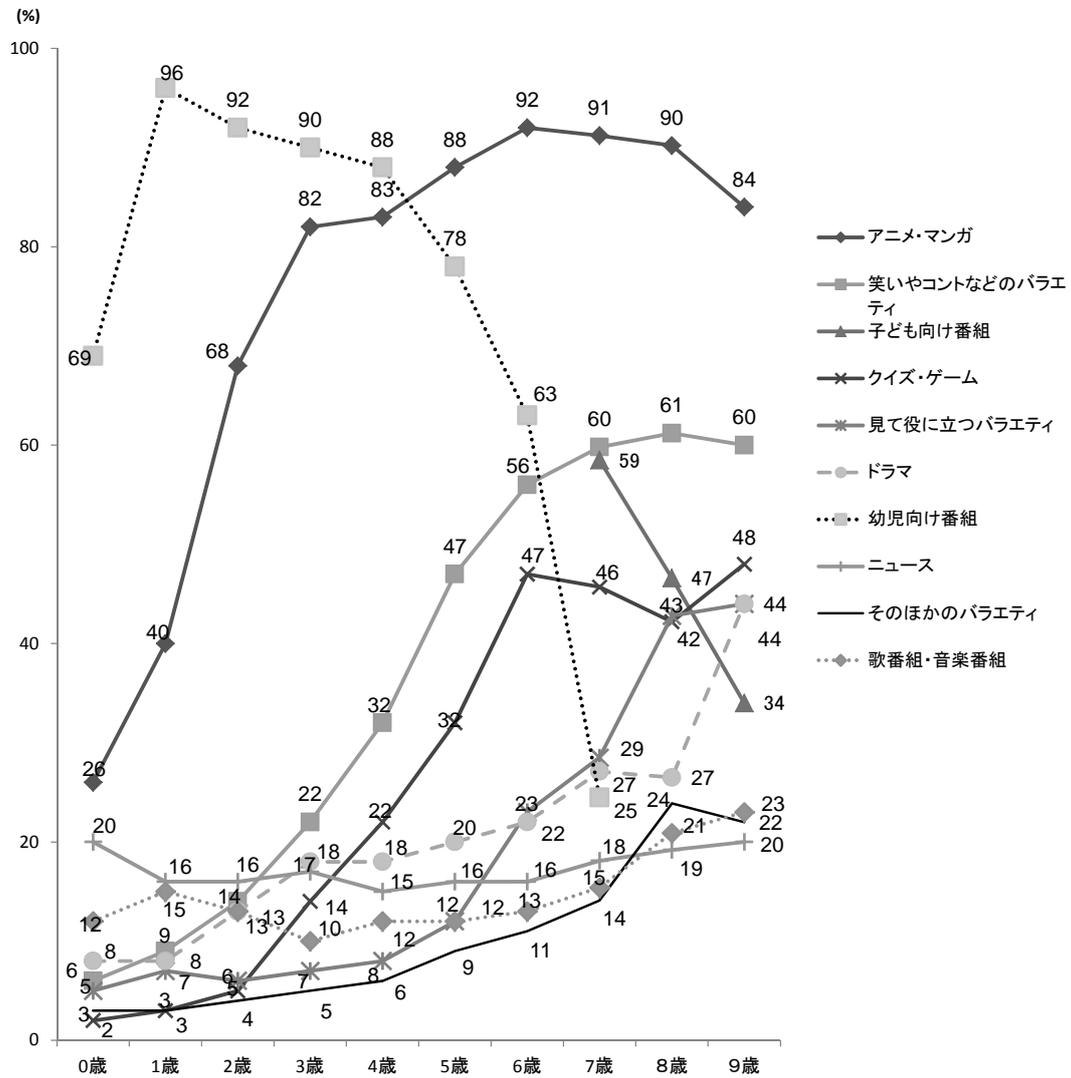
3. 子どもたちがよく見る番組ジャンル

それでは、子どもは年齢とともに視聴番組がどう変わっていくのだろうか。

保護者1用質問紙調査（回答者の99%以上が母親であり、以下「母親アンケート」と記す）では、子どもの生まれ月・性別、通学通園施設の種類に始まり、子どものメディアの接触状況や回答者自身のメディア観、子どものメディア接触への指導、家庭環境や子どもの社会性の発達など、メディア生活を中心に実に多様な質問を行っている。この「母親アンケート」では、マルチ

アンサー方式で「子どもがよく見る番組ジャンル」がある。
「ジャンル」を尋ねており、その結果が図4で

図4 子どもがよく見る番組ジャンル・主要ジャンルの経年変化



0歳から4歳まで「幼児向け番組」がよく見られ、2歳以降あわせて「アニメ・マンガ」を見る子どもが増えてくる。5歳時以降、「アニメ・マンガ」が最もよく見られる番組ジャンルである。同時に、5歳くらいからはバラエティー系の番組なども見ら

れるようになり、よく見る番組ジャンルの多様化が始まる。

視聴日誌調査を元に算出した、調査対象集団の視聴率上位番組を、2歳時(乳児期)、5歳時(幼児期)、8歳時(就学以降)の3時点で比較してみよう(表1)。

表1 視聴率上位番組（2歳・5歳・8歳）

◆2歳

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率 (%)
1	教育	木	08:30	30	おかあさんといっしょ	36
2	教育	木	08:10	15	いないいないばあっ!	32
3	教育	木	08:00	10	にほんごであそぼ	29
4	フジ	日	18:30	30	サザエさん	28
5	フジ	日	18:00	30	ちびまる子ちゃん	24
6	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	24
7	教育	火	17:20	10	ひとりのできるもん!どこでもクッキング	20
8	教育	火	17:10	10	英語であそぼピタパタランド	19
8	教育	月	17:00	10	からだであそぼ	19
8	教育	火	17:50	10	クイントット	19
11	テレ朝	金	19:30	24	クレヨンしんちゃん	17
11	教育	月	09:00	15	ざわざわ森のがんこちゃん	17
11	教育	月	09:15	15	つくってあそぼ	17
14	教育	火	09:00	15	それゆけこどもたい	16
15	教育	火	09:15	15	ピタゴラスイッチ	15
15	教育	水	09:00	15	ドレミノテレビ	15
15	教育	金	09:00	15	バケルノ小学校ヒュードロ組	15
15	教育	木	09:15	15	わたしのきもち	15
19	テレ朝	日	08:30	30	ふたりはプリキュア	14
20	教育	土	17:50	10	アニメおじゃる丸	13

◆5歳

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率 (%)
1	フジ	日	18:30	30	サザエさん	36
2	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	35
3	フジ	日	18:00	30	ちびまる子ちゃん	33
4	テレ朝	金	19:30	24	クレヨンしんちゃん	31
4	テレ東	木	19:00	30	ポケットモンスターDP	31
6	テレ朝	日	08:30	30	Yes!プリキュア5	29
7	日テレ	月	19:00	30	ヤッターマン	27
8	教育	火	08:15	15	いないいないばあっ!	23
9	テレ朝	日	08:00	30	仮面ライダー電王	22
10	教育	火	08:00	10	にほんごであそぼ	21
10	日テレ	月	19:30	30	名探偵コナン	21
12	教育	火	17:30	10	アニメぜんまいざむらい	18
12	教育	木	17:40	10	味楽る!ミミカ	18
14	教育	木	17:50	10	クイントット	17
14	フジ	日	09:00	30	ゲゲゲの鬼太郎	17
16	テレ朝	日	07:30	30	獣拳戦隊ゲキレンジャー	16
16	教育	火	08:35	25	おかあさんといっしょ	16
16	教育	火	18:00	10	アニメおじゃる丸	16
16	教育	火	18:10	10	アニメ忍たま乱太郎	16
20	フジ	水	19:57	57	はねるのトビら	15

◆8歳

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率 (%)
1	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	36
2	フジ	日	18:30	30	サザエさん	35
3	テレ朝	金	19:30	24	クレヨンしんちゃん	32
4	テレ東	木	19:00	30	ポケットモンスターベストウイッシュ	31
5	フジ	日	18:00	30	ちびまる子ちゃん	30
6	テレ東	月	19:00	30	たまごっち!	22
7	フジ	日	19:00	114	逃走中2011・梶野呼伝説	21
7	テレ東	水	19:26	29	イナズマイレブ	21
9	日テレ	土	19:00	56	天才!志村どうぶつ園	20
10	テレ東	水	19:00	26	毎日かあさん	18
11	テレ朝	火	19:00	27	ステイッチ! ~ずっと最高のトモダチ	17
12	テレ東	木	19:30	28	NARUTO疾風伝	14
12	テレ東	日	07:30	60	ポケモンスマッシュ!	14
14	日テレ	土	19:56	58	世界一受けたい授業	12
14	テレ東	月	19:30	30	FAIRY TAIL・フェアリーテイル	12
14	日テレ	水	19:00	56	密室謎解きバラエティー脱出ゲームDERO!	12
14	日テレ	土	18:00	30	名探偵コナン	12
18	テレ東	日	08:30	30	メタルファイトベイブレード爆	11
18	日テレ	日	19:00	114	ザ!鉄腕!DASH!犬だらけワンワンSP	11
18	テレ朝	火	19:27	27	デジモンクロスウォーズ	11


 アニメ・マンガ・特撮
 幼児向け教育番組
 バラエティー系番組
 子ども向けバラエティー番組

2歳時点はNHK教育テレビ(現Eテレ)の幼児向け番組が最もよく見られ、5歳時点は幼児向け番組もよく見られているが、何よりアニメ・マンガが最も人気の高い番組ジャンルである。そして8歳時点はバラエティー系番組が多く見られるようになるなど、視聴番組ジャンルの多様化が始まる時期である。表1と図4と見比べるとそれぞれの時期の特徴がよくわかる。

さて、子どものメディア接触行動には保護者が大きな影響を与えていると考えられる。保護者はテレビやゲームのメディア接触行動をともにしたり、あるいは子どもの

メディア接触行動に制限を加えたりする存在である。このうち、メディア接触行動の共有状況を知るために、すでに述べたように、視聴日誌調査では子どものメディア接触行動について、子どもだけで見ているか、大人と一緒に見ているかを記入してもらっている。

では、子どもが見るテレビ番組は「子どもだけ/大人と一緒に」ではどのような違いがあるのだろうか。まず、その違いがはっきり出ている5歳時点の「子どもだけ」「大人と一緒に」の視聴率上位番組を比べてみよう。(表2-1, 2)

表2-1 「子どもだけ」視聴率比較(5歳)

◆5歳・子どもだけ

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率(%)
1	テレ東	木	19:00	30	ポケットモンスターDP	15
2	教育	金	08:00	10	にほんごであそぼ	14
3	教育	火	08:15	15	いないいないばあ!	14
4	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	14
5	教育	月	17:30	10	アニメぜんまいざむらい	12
5	教育	水	19:27	10	味楽る! ミミカ	12
7	教育	日	18:00	10	クインテット	12
8	テレ朝	日	07:30	24	クレヨンしんちゃん	11
9	テレ朝	月	19:00	30	Yes!プリキュア5	11
10	テレ東	土	18:00	30	しましまらのしまじろう	10
10	教育	水	18:30	10	えいごであそぼ	9
10	テレ朝	木	19:30	30	仮面ライダー電王	9
13	教育	日	08:30	10	アニメおじゃる丸	9
13	テレ朝	日	08:45	30	獣拳戦隊ゲキレンジャー	9
13	教育	日	09:30	10	アニメ忍たま乱太郎	9
13	フジ	土	08:35	30	ゲゲゲの鬼太郎	9
13	教育	水	07:15	15	からだであそぼ	8
18	教育	日	08:30	35	天才てれびくんMAX	8
18	教育	水	07:00	25	おかあさんといっしょ	8
18	テレ東	水	07:00	30	ディズニータム	8


 アニメ・マンガ・特撮
 幼児向け教育番組
 子ども向けバラエティー番組

表 2-2 「大人と一緒に」視聴率比較（5歳）

◆5歳・大人と一緒に

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率 (%)
1	フジ	日	18:30	30	サザエさん	31
2	フジ	日	18:00	30	ちびまる子ちゃん	27
3	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	23
4	日テレ	土	19:00	56	ヤッターマン	22
5	テレ朝	金	19:30	24	クレヨンしんちゃん	21
6	テレ朝	土	19:56	58	Yes!プリキュア5	20
7	テレ東	木	19:00	30	ポケットモンスターDP	18
8	日テレ	土	18:00	30	名探偵コナン	17
9	テレ朝	木	19:30	30	仮面ライダー電王	15
9	フジ	土	18:00	30	はねるのとびら	15
9	フジ	月	19:56	58	脳内エステIQサプリ	15
12	フジ	土	21:00	69	クイズ!ヘキサゴン2	12
13	日テレ	日	19:00	114	天才!志村どうぶつ園	11
13	フジ	土	08:35	30	ゲゲゲの鬼太郎	11
13	教育	火	08:15	15	いないいないばあ!	11
16	フジ	土	19:00	114	めっちゃ×2イケてるッ!	10
16	教育	日	09:30	30	にほんごであそぼ	10
16	フジ	水	19:27	28	熱血!平成教育学院	10
16	フジ	土	18:30	30	まるまるちびまる子ちゃん	10
20	日テレ	日	18:56	118	ザ!鉄腕!DASH!!	9


 アニメ・マンガ・特撮
 幼児向け教育番組
 バラエティー系番組

5歳時点では、アニメ・マンガは「子どもだけ/大人と一緒に」のいずれの場合もよく見られているが、子どもだけで見ている番組はNHKの幼児向け教育番組がアニメ・マンガに劣らず多く含まれ、大人と一緒に、つまり保護者と一緒に見ている番組にはバラエティー系の番組が目立つ。

この違いの背景には放送時間のことがあろう。特に夕方の番組については、母親が食事の準備に忙しい時間は子どもだけで見るであろうし、母親がテレビを見られる時間は一緒にテレビを見るであろう。

同じく「子どもだけ/大人と一緒に」の比較を、9歳時点で見てみよう。(表3)



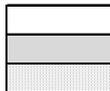
表3 「子どもだけ/大人と一緒に」視聴率比較（9歳）

◆9歳・子どもだけ

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率 (%)
1	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	20
1	テレ東	木	19:00	30	ポケットモンスターベストウイッシュ	20
3	テレ朝	金	19:30	24	クレヨンしんちゃん	17
4	テレ東	水	19:00	27	イナズマイレブンGO	13
5	フジ	日	18:30	30	サザエさん	11
5	テレ東	水	19:27	28	ダンボール戦機	11
7	フジ	日	18:00	30	ちびまる子ちゃん	10
8	テレ東	日	07:30	60	ポケモンスマッシュ！	9
9	テレ東	月	19:00	30	たまごっち！	8
10	日テレ	土	18:00	30	名探偵コナン	7
10	テレ東	水	18:30	30	ピラメキーノ	7
10	テレ東	木	19:30	28	NARUTO疾風伝	7
13	テレ東	日	08:30	15	メタルファイトベイブレード4D	6
13	テレ東	日	08:45	15	クロスファイトビーダマン	6
13	フジ	日	09:30	30	ワンピース	6
13	Eテレ	土	08:35	25	アニメおさるのジョージ	6
13	Eテレ	水	07:15	10	アニメはなかつぱ	6
18	テレ朝	日	08:30	30	スイートプリキュア	5
18	テレ東	水	07:00	30	おはスタ2部	5
18	Eテレ	水	07:00	15	シャキーン！	5

◆9歳・大人と一緒に

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率 (%)
1	フジ	日	18:30	30	サザエさん	19
2	フジ	日	18:00	30	ちびまる子ちゃん	16
3	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	15
4	日テレ	土	19:00	56	天才！志村どうぶつ園	14
5	テレ朝	金	19:30	24	クレヨンしんちゃん	13
6	日テレ	土	19:56	58	世界一受けたい授業	11
7	テレ東	木	19:00	30	ポケットモンスターベストウイッシュ	10
7	日テレ	日	19:00	114	ザ！鉄腕！DASH！犬だらけワンワンSP	10
7	日テレ	月	19:00	56	宝探しアドベンチャー 謎解きバトルTORE！	10
10	日テレ	土	18:00	30	名探偵コナン	9
11	日テレ	月	19:56	58	世界まる見え！テレビ特捜部	8
11	日テレ	土	21:00	69	理想の息子	8
13	フジ	日	19:00	114	ほこ×たて2時間スペシャル	7
13	テレ東	水	19:00	27	イナズマイレブンGO	7
13	テレ朝	金	20:00	108	ミュージックステーションSP	7
13	フジ	土	19:00	114	潜入！リアルスコープ 2時間スペシャル	7
17	フジ	日	09:30	30	ワンピース	6
17	テレ東	水	19:27	28	ダンボール戦機	6
17	日テレ	土	18:30	30	満天・青空レストラン	6
17	テレ朝	日	18:56	118	シルシルミシルさんデー 特盛版	6



アニメ・マンガ・特撮
 幼児向け教育番組
 バラエティー系番組



子ども向けバラエティー番組
 ドラマ番組
 音楽番組

5歳との大きな違いは「子どもだけ」の視聴率上位番組がほとんどアニメ・マンガになることである。小学校入学くらいから幼児番組を見る子が減っていくため、アニメ・マンガがその代わりを果たすのである。「大人と一緒に」はアニメ・マンガに加え、バラエティー系番組の視聴率が上昇してくる。この傾向は7歳くらいから変わらない。

4. 保護者の関わり方

子どものメディア接触行動には、保護者の関わり方が大きな影響を与えている。ここで、主に母親アンケートの結果から保護者の関わり方を見てみたい。

本プロジェクトでは、保護者の関わり方を「フィルタリング行動」と呼び、内容から「共有」と「選択」に分類している。フィルタリング行動の「共有」に分類されるのは、「一緒にテレビ番組を見ること」、「番

組の内容について話すこと」の2点である。

図5-1, 2に示したのが、母親の「共有」行動に関する経年変化である。子どもと「一緒にテレビを見る」ことは、0歳時を除けば、6割から7割の母親にあてはまる行動であり、「見ているテレビ番組の内容について話す」ことは、2歳以降、8割の母親についてあてはまる。多くの母親が日常的に子どもと一緒にテレビを見、その内容について言葉を交わす。日常生活における子どもと母親との関係に、テレビが一定の役割を果たしていることを示唆する結果である。

また、2つのグラフから、とりわけ乳児期(0~2歳)における子どもと母親との密接な関係がうかがわれる。しかも、乳児期にテレビを見ながら話す行動は子どもの言語の発達に関わることが本調査の分析から明らかになっている⁴⁾。

図5-1 母親のフィルタリング行動(共有)の経年変化

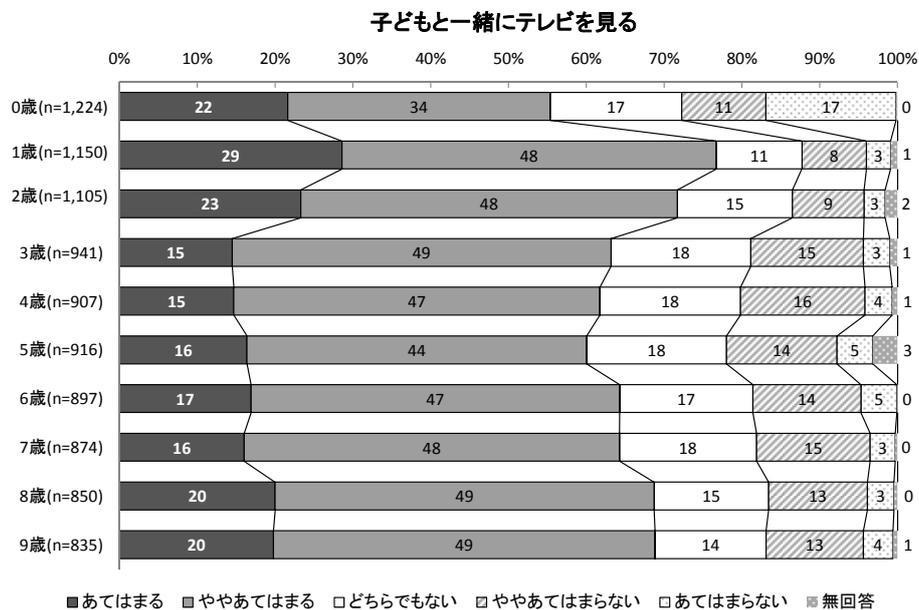
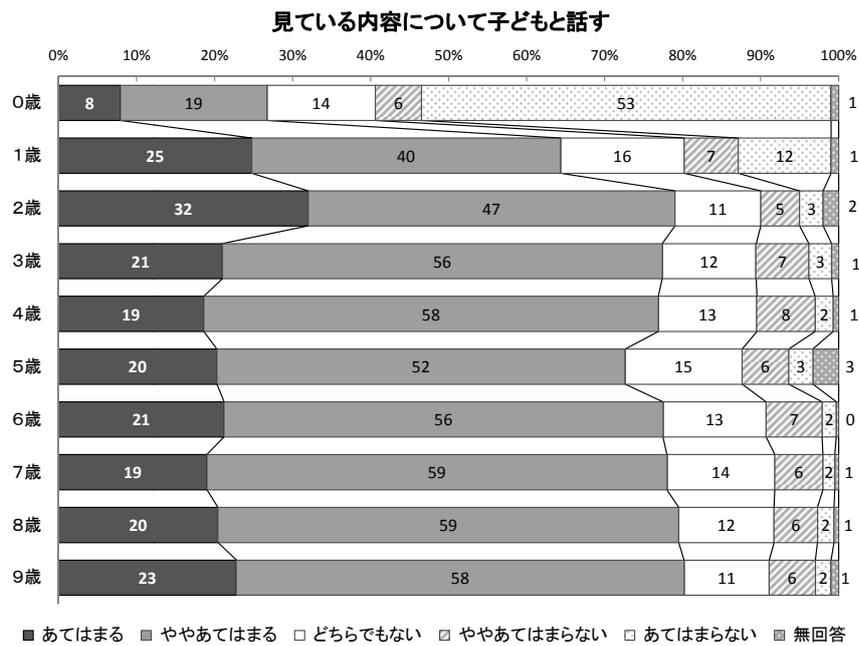


図5-2 母親のフィルタリング行動（共有）の経年変化



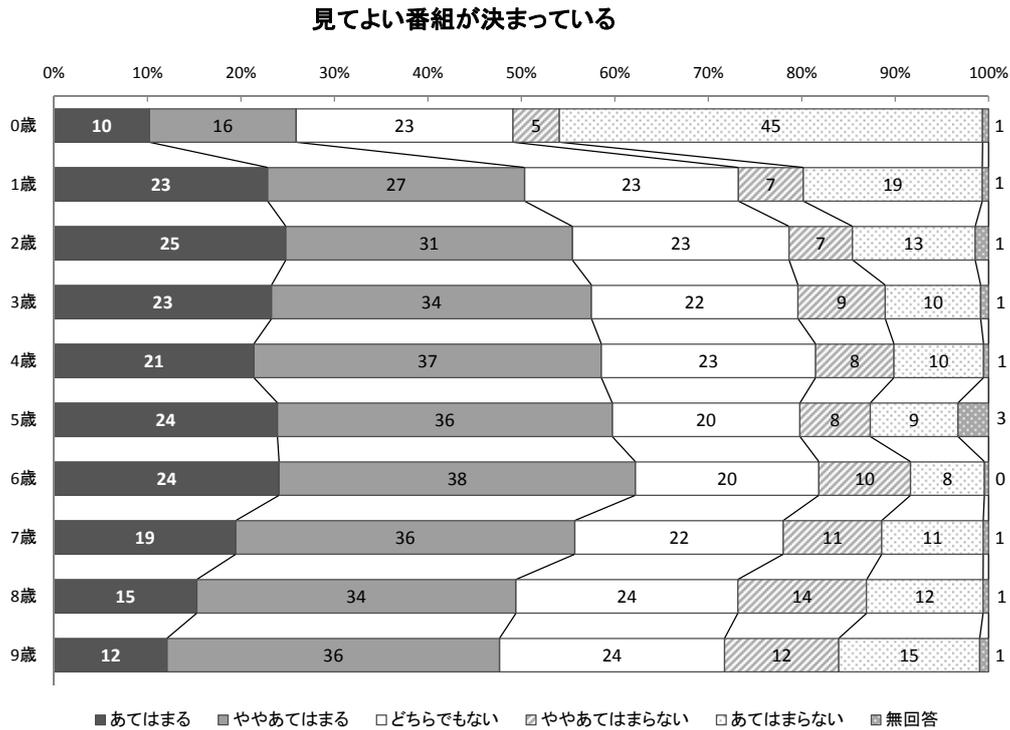
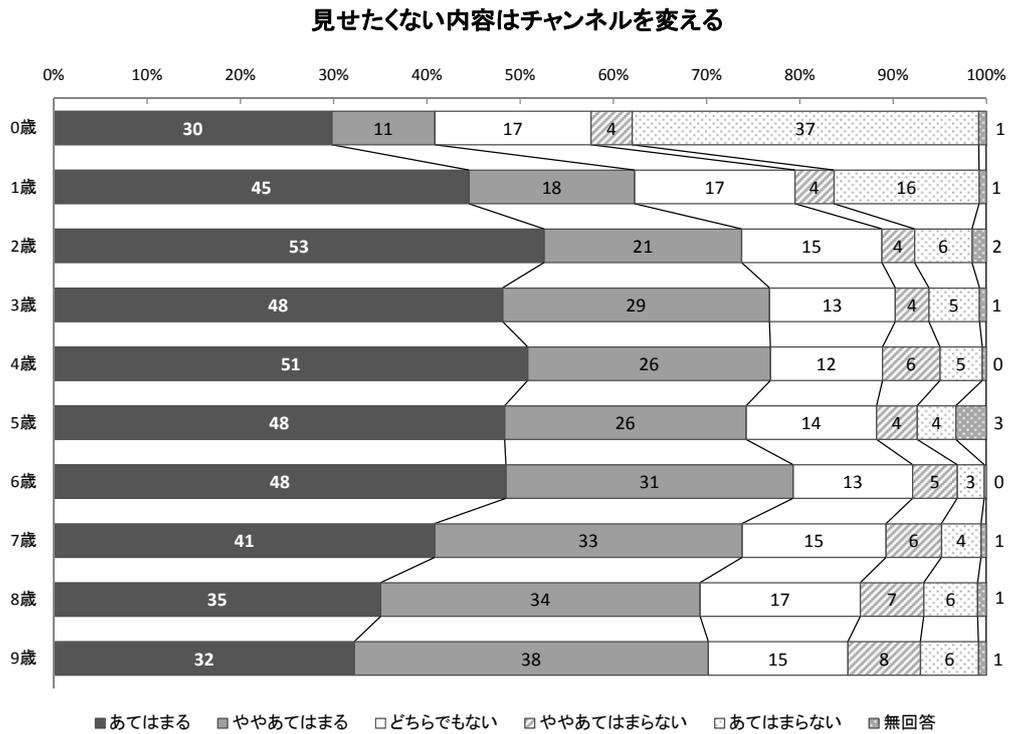
一般的には、保護者は子どもが見るテレビの内容を把握したりルールを作ってそれを守れるよう導く存在である。この保護者の見守り導く行動を、フィルタリング行動の「選択」という。

母親アンケートでは、フィルタリング行動（選択）を「見せたくない内容はチャン

ネルを変える」「見てよい番組を決めている」「見てはいけない番組を決めている」「食事中はつけない」の4項目にまとめ、継続して質問してきた。このうち、「見せたくない内容はチャンネルを変える」「見てよい番組を決めている」の2項目について、10年の経年変化を見てみよう。（図6）



図6 母親のフィルタリング行動（選択）の経年変化



おおまかな表現ではあるが、1歳から6、7歳くらいまで、母親の多くは子どものテレビ視聴にきちんと目配りしていると言えよう。就学以降、フィルタリング行動（選択）がやや緩んでくる。これは「見てはいけない番組を決めている」「食事中はつけない」でも、概ね同様の傾向が示されている。

この背景には、母親の「テレビの影響観」があるかもしれない。グラフは示さないが、4歳まで「テレビは子どもに悪い影響を与える」とする母親が20%前後を占めていたが、6歳くらいから減少し始め、9歳では7%である。逆に、「良い影響を与える」と考える母親は、5歳時34%だったが、9歳では46%に増えている。もちろん、実際に良い影響を与えるか、悪い影響を与えるかは、今後の分析を待たねばならない。

親のフィルタリング行動は子どものテレビ接触時間を左右する。本プロジェクト調査の分析の結果、年齢時期にもよるが、乳幼児期においては、概ね「共有」行動は子どものテレビ接触時間を増加させ、「選択」行動は子どもの接触時間を減少させることが分かっている⁵⁾。

付言するならば、保護者のフィルタリング行動とともに、保護者自身のテレビ視聴時間が子どもの接触時間に影響を与えることは当然考えられ、実際、乳幼児期については母親のテレビ視聴時間が子どものテレビ接触時間を増加させることが分かっている⁶⁾。

5. おわりに

以上、子どもたちがテレビをどのように見てきたかについて、“子どもに良い放送”プロジェクトが行ってきたパネル調査の10年間を振り返った。

本調査の目的は、本稿の「はじめに」に

記したように、映像メディア（テレビ、ビデオ・DVD・HDD、ゲーム）との接触が子どもの成長と発達に対してどんな影響を与えるのかを調べ、その結果を元にメディア環境のあるべき姿やメディアの活用方法を考えることにある。

調査は、来年（平成26年）3月の第12回を残すのみとなった。本格的な分析は、第12回調査の結果がまとまるのを待ってスタートする。0歳以降の映像メディアへの接触が、子どもの社会性や協調性、心の発達、言葉や数に関する知的な発達などにどんな影響を与えるのか。また、家庭環境や親のメディア観は子どもの映像メディア接触にどんな関係性を持っているのか。さまざまな観点から分析を行う予定である。

調査スタート時点で有効回答数は1,200余りであった。11回調査時点で、800人を超える。これだけの規模での詳細な映像メディアの影響調査は世界的にも貴重なものと自負している。調査と分析の結果については再来年以降に外部発表していく予定である。

注)

¹ 本調査は第1回調査より、調査実施および集計作業を新情報センターに委託している。

² プロジェクト開始時点からの共同研究者は、小林登（国立小児病院名誉院長）、鮑戸弘（前東洋英和女学院大学学長）、小西行郎（同志社大学教授）、子安増生（京都大学教授）、榊原洋一（お茶の水女子大学教授）、坂元章（お茶の水女子大学教授）、菅原ますみ（お茶の水女子大学教授）、箕浦康子（お茶の水女子大学名誉教授）、一色伸夫（甲南女子大学教授）の9名。

³ パネル調査はサンプルの脱落が大きな課題となるが、本調査は新たな調査対象の募集は

行わずに終了する予定である。第10回調査時点での調査対象者（パネル）数は999人、うち第10回調査協力に同意いただいたのは893人。

- 4 菅原ますみ「乳幼児期のテレビ・ビデオ接触の実態および社会情緒的発達との関連—0歳・1歳・2歳の3時点調査から—」（『“子どもに良い放送”プロジェクト・フォローアップ調査中間報告・第3回調査報告書』所収）
- 5 中井俊朗・西村規子・菅原ますみ「乳幼児期のテレビ接触を規定する要因～“子どもに良い放送”プロジェクト・中間総括報告書から～」（『NHK放送文化研究所年報2010（No54）』（2010年）所収）
- 6 同上

筆者プロフィール

中井 俊朗（なかい しゅんろう）

NHK放送文化研究所・主任研究員。
1977（昭52）年、NHK（日本放送協会）入局。以来、主に番組制作畑を歩き、福祉番組や語学番組などの制作を担当。2006年から放送文化研究所、“子どもに良い放送”プロジェクトの事務局を務める。

